

議長（米澤秋男君） 町長。

〔町長 佐藤澄男君 登壇〕

町長（佐藤澄男君） 工藤清悦議員から御質問をいただきました。最後の質問者ということでありますけれども、非常にまちづくりの基本的な部分にかかわる御指摘、御質問だというふうに思ってお聞きをいたしておったところでございます。

まず、行政機能を充実させるための職員の意識改革と資質の向上についてということでございます。

御案内のとおり、私も6月18日、初登庁した際に、即職員に訓示という話になりました。前もって準備したことはなかったんですが、基本的な考え方として、公務員としてのあるべき姿を説いた戒石銘、二本松城址にございます保科家の家訓でございます。「爾の俸、爾汝の禄は民の膏なり。民の脂なり。下民は虐げやすきも、上天は欺きがたし」という、この格言を引いて訓示をさせていただきました。ここに詰まっていることは、公務員、公僕としての心構え、これが凝縮されているというふうに理解をいたしております。

この具体的な進め方ということになるわけでありまして、まずは、この意味をきちんと理解をしていただくことから始めなければならないのかなというふうに思っておるところでございます。形としては、町の組織というのは、町にある企業においても一番の巨大組織になるわけでありまして。そして、そこから発せられることの重要性をしかと認識をしていただいて、仕事に当たっていただくということが何よりも肝心なことだというふうに考えておるところでございますので、その点について各課長を通じて職員にその意識を徹底させる。そこから始まるんだろうというふうに考えております。

協働という言葉がよく使われるわけでありまして、これは、行政の変革から始まるものだと思っております。今こそ職員には多様多彩な地域情報の収集能力と、その柔軟性、創造力にあふれた発想力、そして、行動というのが求められているんだろうというふうに思います。

それをきちんと職員の中でも序列があるわけでありまして、下の意見であってもいいものはきちんと取り上げて、吸い上げてこれを実践させていくという、そういう基本的な組織の対応能力といいますか、そういったものが今求められているんだろうというふうに思います。特に、先ほど来御指摘がさまざまな形で質問されましたけれども、職員の数が削減されていく。そうした中でその戦力となるべく職員の質の向上を図っていくというのは当然のことでございますし、その400人いたものが300人で間に合う組織体にしていかなければならないということでもありますから、それなりの意識を持って取り組んでもらうこと。そして、それに行

政が必要なカリキュラムをつくっていくこと、これが一番大事なことだろうというふうに理解をいたしております。

次に、企画意識の啓発を進めるべきだということでございます。このことについては、いろいろな形で住民の要望と申しますか、常日ごろ考えていることを取り入れて、しかも、それをただうのみということではなくて、施策としてそれを跳ね返してやるというくらいの、そのミキサー的な役割というものが今求められているんだろうというふうに思うわけでございまして、それをかみ砕いて進めていける、そういう、これはどこの機関ということではなくて、そこにあるリーダーシップを発揮できる役割の者がきちんとそれを踏まえて取り上げていくということが大事なことだろうというふうに思っております。

言うなれば、協働による日ごろの取り組みの中でも主体的な活動の積み重ねがそういう連帯感を生んでいくんだろうというふうに思いますし、自治意識の高揚にもつながっていくんだろうという視点でございまして。

こういったものをますます地域のコミュニティーというものが重要なものになってきているわけですから、そういったものを方向づけをきちんとしてまいりたいというふうに考えております。

それから、まちづくり理念の共有が必要と思われるということでございます。全くそのとおりでございまして、これまでなかったということではなくて、合併をして新しい加美町という単位ができて、この4年間というのは、その町、加美町という単位で一生懸命これをやっていたかなければならない、その地域を旧三つの町をまとめて走っていかねばならないという、そういう使命感がこれまであったろうと思います。

反面、そういう意味で、きちんとしたまちづくりの理念というものがなかったわけではないんですが、それをかみ砕いておろしていくということがちょっと欠けていたのかなというふうにも感じられます。

そういった意味で、この機会に私は加美町は一つだということでの対応をして当選をさせていただいた経緯もございまして、もちろん中新田、小野田、宮崎という、そういうエゴを丸出しにするというようなことは決してすべきではないというふうに思っております。こういったことを基本にしながら、進めていくのがこれからの私に与えられた使命でもあるというふうに考えてまいりたいというふうに思います。

以上、いろいろな視点でこの問題あるわけでありましてけれども、一つには、地方分権の進展の問題がございまして。地方分権の一括法、三位一体改革を初めとする国のもろもろの施策があ

るわけでございますけれども、何も自治体は国の下請でもないわけございまして、地方自治体としての国との対等の立場、協調の関係等、みずからその位置づけというか、これを持っていかなければならないことは言うまでもないわけであります。

しかしながら、いわば地方自治体、政府でございますけれども、これが自立していくための条件というものがおのずとあるわけございまして、その条件整備がなされていない。このことに、今どの自治体でも苦労している。特に財政の問題で皆四苦八苦をしているという現状にあるわけございまして、こういったことをかんがみて、今後税の体系の問題、要するに自主財源をいかにして確保するかということにつながるわけでありまして、これまで以上に主体的な考え方を持って、国なり県なりにそういう要求を突きつけ、そして実現をしていくということが何よりも大事なことだというふうに考えております。

また、二つ目の視点として、社会環境の大きな変化が挙げられるわけございまして、住民ニーズやライフスタイルの多様化等、個別化といったら、これは余りにも進み過ぎて、協調性がなくなったという面があるわけございまして、その反動としてのコミュニティーの希薄化、こういったものが進行している現状を見ているわけでありまして、また、防災への対応、少子高齢化社会への対応、社会的課題に対する町としての姿勢、こういったものがなかなか国レベルで難しい問題がここにあるんだろうというふうに思います。

しかし、地方自治体としてこれを解決していくためには、これまで以上に町民と行政の関係、その仕組みというものが大事なことでありますから、まだなつばかりの町長でございますけれども、よくそういう行政の機構、機能を見定めた上で、今後どうしたら町民が一番権利を享受できる体制がつかれるかという視点に立って、これから進めてまいりたいというふうに考えております。どうぞ工藤議員初め、議員各位に御理解をいただきたいと思っております。

以上で工藤議員に対する答弁とさせていただきます。

議長（米澤秋男君） 9番。

9番（工藤清悦君） ありがとうございます。

三つの点についてお話をいただきました。職員の方々についての訓示ということで、所信表明の中でお示しをいただいたんですけれども、大変感動と申しますか、今までの町長さんの中でなかなかここまで踏み込んで職員の方々にお話をしたということについては、余りなかったのかなというような思いをさせていただいております。

ただ、職員の方々もやはり精いっぱい仕事をこなしているわけですし、これからますます職員の数が減っていくというようなことになると、ますます自分の持ち分と申しますか、そ

ういものがふえてくるというふうに思うんですけども、やはりここで、行政のサービスというのは、どこまでやらなくてはいけないのかという、そういう仕分けの部分まで踏み入ってお話をしないと「どうも町長かわったら、役場のサービス悪くなったっちな」なんていう評価も出てくるのかなというふうに思っています。

これは、単なるお金がないからサービス悪くなったということではなくて、一つのまちづくりは行政がやる部分と住民がやる部分と、そしてなおかつ一緒にやるんだよというふうな、そういうところまで踏み込んだ話で、町民の方々の理解、または民間の活力といいますか、そういうものを引き出していく必要があると思うんですけども、サービスの仕分けというものに対して、今後どのような形で職員の削減とともに、考えていかれるのか、まずお伺いをしたいというふうに思います。

それから、先ほど今まで一般質問の中でも行財政改革の中で出てきたんですけども、人員削減計画の中で団塊の世代の職員の方々がやめられていくということなんですけれども、やはり今まで、ここに特にお座りになっている課長さん方は特に、長年奉職されて、役場のノウハウといいますか、行政の施策のノウハウをおわかりなんですけれども、それをいかに後輩に伝えていくかということが非常に大事になってくるのかなというふうに思っています。

ちょっとこの前、たまたま旧宮崎町の名誉町民第1号の菅原兵治先生の書いた本ちょっと目に触れる機会がありまして、その中で菅原先生が仕事とは何なのかというようなことを言っているんですけども、給料をいただくための目的もあるし、また、二つ目は社会参加なんだというようなことも、社会貢献なんだというようなことも言っていますけれども、もう一つは、仕事を通して自分づくりなんだというようなことも言っているわけですね。

ですから、ここにお座りの本日の行政マンとしては最高峰である課長さんたちが後輩たちにこれからの加美町の行政のあり方、または職員としてのあり方というものを日々仕事の中で伝えていくことも必要なのかなと。これは、町長の仕事かどうかというようなことに対しては、ちょっと私も定かではありませんけれども、やはり事あるごとに我々は単なる「職員の資質の向上」なんて簡単に言いますが、我々が言うように、すぐに職員の方々の能力といいますか、そういうものがアップするわけではありませんので、それぞれ培った先輩たちの教を請いながら成長していくんだらうというふうに思いますので、そういう行政機構のあり方といいますか、体制のあり方といいますか、そういうものについて、町長、どういうふうにお考えになっているか、お伺いをしたいと思います。

それから、まちづくりへの町民とか町民が形成している団体の参画意識なんですけれども、

どうもちょっと苦いお話をさせていただくと、そういう団体の事務局を持っていることが行政の仕事みたいな意識を持っておられるところもあるように思います。これは、先ほど申しあげました行政サービスの仕分けの部分とかかわりがあるわけですが、やはり自分たちの組織については、自分たちで最低限度運営していくというような思いがないと、どうしても役場が面倒とか、役場が事務局持ってもらわないとだめなんだと。活動できないんだというような意識を少しでも整理していかないと、なかなか行政のスリム化といいますが、そういうものにはつながらないのかなと。

もう一つは、真に町民が行政と協働という同等の立場でまちづくりへの参画意識というのは形成できないのかなというような思いがありますので、そういった中で、これは先ほども言いましたけれども、サービスの仕分けとかかわりあるんですけども、自主的にまちづくりのために活動するんだというような啓蒙活動といいますが、そういうものも必要になってくるんじゃないかというふうに思います。

また、これに関連することが補助金の問題でありますけれども、補助金審議会、検討委員会でもさまざまな議論もされたようでありますけれども、私、補助金というのは、その団体なり組織が町民のために社会貢献をしてもらうための条件整備のお金だというふうに思っています。その団体の人たちがその中でそれを使っていくんだという、利用していくんだということではないんだろうというふうに思いますし、また、行政がやるべきサービスまたは行政がやるべき事業をそういう団体の方々がたまたま肩がわりしている、または、目的が同じだということでの補助金というようなことでの考え方もあるというふうに思いますので、そういったサービスの仕分けに絡んだ事務局のあり方、事務局のあり方が町民の組織、または職員としてのまちづくりの考え方にも共通しているところがあると思いますので、どのようなお考えかお伺いをしたいと思います。

それから、まちづくり理念の共有でありますけれども、やはり知り得た情報でしかまちづくりの内容、またはこれからの姿、自分の考えというものしか出てこないのではないかなというふうに思っています。

そういう意味では、町長も施政方針の中で情報公開ということに重きを置いているわけですが、ひとつささいなことということではないんですけども、町民にとって苦いことでもひとつしっかりと町民に情報を提供して、その中で行政と町民とどういう形でいままちづくりをしていくのかというような、その土台にしてもらうための情報公開も必要ではないかというふうに思いますので、その点についての情報公開についてのあり方についてのお考えをお伺

いします。

特に、職員の方々が減る、または、まちづくりのために町民の方々が組織運営なりも自分でやっていく、または、まちづくりを行政と共有していくということになりますと、やはり職員の方々については、専門知識が必要とされてくるわけですし、そういった中で、その職員が培った専門知識を町民みずからまちづくりをするためのひとつ情報といいますか、シンクタンクとしての知識、情報を町民に伝えていただくようなことも考えていただければ、より効果的なまちづくりができるのではないかなというふうに考えますので、その点についてお伺いをしたいと思います。

議長（米澤秋男君） 町長。

町長（佐藤澄男君） 再質問で、またたくさんいただきました。

まず、行政のサービスというのはどこまでする必要があるのかというか、仕分けをする必要があるのではないかなというようなことでございます。

確かに考えてみますと、今私たち学校卒業したあたりまでは、昭和40年代初め、自分の家の周りの道路は自分たちで、もちろん舗装道路もなかったせいもあるんですが、砂利をみんなで運んで、地ならしをしながら、道路普請をした。あるいは、除雪にしても、今みたいな機械がなかったものですから、自分の屋敷内は当然自分ですること。これが今の現実の行政のサービスと言われるものと比較して考えれば、ああこういう変遷があったのかという思いをいたしているところでございます。

しかし、それも税金を納めてこうやってやっているんだというようなことでの町民、住民の側からのニーズということも、これはあるわけございまして、一番私なんかは陸の孤島と言われた集落に住んでいましたから、感じるのは、防雪さくでございまして、そういった恩恵もあるわけございまして、これをどういうふうに考えるかということは非常に難しいことであります。

しかし、昨今農政の関係でも出てきております草刈りまで自分のことをするのに、あるいは水路払うまで、それをお金で勘定するというような、これまた逆に考えれば世知辛い世の中にもなっているというふうにも感じます。

こういったことが、これは全部役場の組織の中でも各課にあるわけではないわけですが、結局そこで一番大事なことになってくるのは、加美町という単位でこれを家族に考えたらどうなるのかなという視点だろうというふうに思います。

これは、財政のこともそうだろうというふうに思いますけれども、お金がない、ないと言っ

て、言うなれば一家の主が1人悩んでいても、その妻、子供がそんなことは全然知らされていなかったら、放蕩をすることもあるわけであります。こういったことの意味からすれば、その必要なことは町民に、その家族に知らしめるというのは当然なことだろうというふうに思うし、また、その中から協働、連帯の意識も育ってくるんだろうというふうに考えます。

答えには直接ならないと思いますが、視点としてそういう基本的な考え方でいくべきだろうというふうに思っております。

それから、参加意識の問題も出されました。これもどういう伝達方法があるのかというようなこと、御案内のとおり、前の質問もございました中で出てまいりましたパートナー制度というようなことも大事なことであろうし、また、指定管理者制度をこれから充実をさせていくという中で、こういったものに絡んでくる重要な問題があるんだというふうに認識をいたしております。

また、役場で事務局を持っていると。それゆえにそれ以上広がらないというか、まみ見られる傾向があるわけでありますけれども、これは補助金の問題とも絡んでくるわけでありますが、自立してやるというのは、当たり前のごとでございまして、これを育成していく。それを運営するものを育成するという側面とあわせて考えていくべきものであるというふうに考えております。

補助金の問題につきましては、その制度、補助金の適正化委員会ですか、提起をされまして、その方向に行っておるようではありますが、私は基本的に補助金というのは、必要な分野において期限を切ってというか、要するにここまでの町がお手伝いする必要があるものについて、何年かけてここまでやったら自立ができるもの、あるいはそうは言っても、例えば子供たちを育成するような関連においては、これは継続して施策として必要なものは継続をしてやるとか、そういったものについての基本的な考え方がそこにあって、交付されるべきものであるし、必ずしも一律にそれを取り扱うというのがいいというふうにも考えておるわけではないのであります。

いずれにいたしましても、今後そういうもので調査をしながら対応してまいりたいというふうに思っております。

それから、要するに情報公開のお話がありましたけれども、ある意味ではこれまでもそんな……隠している部分はなかったんじゃないだろうかというふうに思うんですが、問題は、町民の皆さんにそれが伝わっているのかどうか問題なんだろうというふうに思います。

広報紙も盛りだくさんで、お知らせのたぐい、あるいは議会の大事なことについても町の広

報紙あるいは議会広報などについて、これは十分過ぎるくらい公開はしているというふうに思います。

しかし、実際に受けとめる町民の方からすれば、「ああわからなかった」ということが多いんですね。特に選挙になりますと、いろいろなことですから、そこにあるわけでございまして、一方的な数字がひとり歩きするようなこともあるわけですし、どうしてこうなるんだろうというふうに考えてみますと、もっと同じ公開をするというか、新聞をつくるとしても、見やすいというか、町民の皆さんの目に触れる、頭に入る方法をまず考える必要があるのかなと思っておるところでございます。

議会広報の委員長さんでもございますから、少しアイデアをおかりしたいところでもございます。

いずれにいたしましても、こういう専門知識と言われる分野も当然あるわけでございますけれども、こういったものも個人情報の保護条例というようなものもあるわけでございますが、そういったものと整合した形で、できる限り公開をするという姿勢で進めてまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いを申し上げます。

議長（米澤秋男君） 9番。

9番（工藤清悦君） ありがとうございます。

最初の一般質問で振り返りに遭うとは思いませんでしたので、確かに町長が言うように、広報というのは本当は見れないんですね。というのは、ちょっとこれは役場の部署は控えさせてもらいますけれども、「何でこれ広報に上げなければならないのっしょ」と言ったら、大変失礼な話ですけども、「いや、広報に上げたものは、みんなに知らせたべっちゃ」というような大義名分が立つそうでもあります。役場としては、そういう反面もあるというようなことで、確かに我が家もそうなんですけれども、回覧板回ってきて、その家のだれかが見て、家に関係ないとぱっと回してしまうという、そういうたぐいのものと、もう一つは、やっぱりさっきもお話ししたんですけども、こうしなければい町できないんじゃないかという投げかけとあります。そういう部分、こうすればよくなるんだよということじゃなくて、ちょっと行政がこうやりますということだけの情報公開だけじゃなくて、「今こういう状況にあるので、みんなやらないといいまちづくりにならないべっちゃ」という部分まで踏み込んだ意味での広報というか、情報公開というか、そういうところまであれば、もっと皆さんが興味持って見れるのかなというように思いをさせていただきました。

なかなか職員の方々、大勢の方々が一致団結してこれからのまちづくりに奮闘するというよ

うなことで、そのかじ取り役として、町長これから大変多難なというよりも、大変難しいといいますが、イバラの道をこれから歩むとは思いますが、やはり町長が所信表明でも述べておられましたけれども、先人の知恵というものがどうも我々新しいもの、新しいものというようなことで目が行くんですけれども、どうも特に我が郷土の中ではぐくまれてきたものの大切なものというのは、なかなか、これはこれからの部分は教育長の分野になるのかなと思うんですけれども、通告しておりませんので、町長にお伺いというか、感想といいますが、述べさせてもらいますけれども、非常に人間として、特に町民として大事だとか何とかじゃなくて、同じ地域に住む同胞、または……、さっき町長がかつてファミリーと言いましたけれども、やはり共通認識の中でみんなでこうやって目標を定めて頑張っぺやというようなものの目標といいますが、手法、先人の方々が非常に示唆してくれているのではないかなというふうに思うんですね。

そういう意味で、事あるごとに職員の方々に昔のことを引っ張って町長に話ししてくださいというふうには、お願いするわけにはいかないんですけれども、やはり忙しさの中に仕事を通じて町民の方々と一緒に協働と言いながら、自分の仕事の存在感というか、今ここで働いている仕事の充実感というのは、そういうのを職員の方々も味わう。または、町民も味わえるような行動をすることがまちづくりにつながったなというようなところの思いが得られるような、ひとつまちづくりの姿勢というものを目指してほしいというふうに思いますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

議長（米澤秋男君） 町長。

町長（佐藤澄男君） 大変哲学的な分野で御提言をいただいたような気がいたします。

哲学というと、堅苦しいようですが、そうではなくて、もっと身近な大事なこと、忘れていようなものを呼び覚ます、呼び起こすというのも、これは今この社会情勢の中で必要なことだと私も思っております。

いろいろな先人の例が今紹介されましたけれども、残念ながら、学校でこういうことも教えなくなっておる現実がございます。郷土の偉人についてもそうだというふうに思います。

いろいろな副読本などがあるようでありましてけれども、学校現場でももっとそういうものの人づくりに励む、そういうものが必要かというふうに考えております。

また、職員のそういう啓発につきましても折に触れて私の知り得ることをお話をしたいとも思いますし、何よりも名前を知るというよりも、その生きてきた人の実績といいますが、残したものの、そして、必ずしもその時代に評価をされなくても、後に評価を得るということもある

わけでございますから、こういったものについての大事な視点を持ってまちづくりに当たって
いきたいというふうに考えておりますので、よろしく御理解をいただきたいと思ひます。

議長（米澤秋男君） 以上をもちまして、9番工藤清悦君の一般質問は終了いたしました。

これをもちまして、本職に通告がありました一般質問はすべて終了いたしました。一般質問
を終わります。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

なお、明日は、午前10時まで本議場に御参集願ひます。

きょうは大変御苦勞さまでした。

午後4時07分 散会